

# 京極読書新聞 <第61号>

発行日 平成26年10月1日(水)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 京極中学校 職場体験 2014

9月9日(火)～10日(水)



毎年この時期に行われる京極中学校・職場体験学習(2年生)。今年は、櫻井翔くん(写真左)、多田龍生くん(右)、男子2名の職場体験でした。

1日目は、図書館の仕事の入門編。図書館は、たとえ6万冊もの本があっても、子どもからお年寄りまで、誰でも簡単に目指している本に行き着けるようにさまざまな工夫がこらされています。それは、本の分類であったり、書架の並べ方であったり、センスのよい展示であったりするのですが、まずは、そういう図書館業務の基本的な約束事をおぼえてもらいました。

そして、2日目はその応用編。壊れた本の修理がおもしろくても、カウンターが混み出したら修理作業を中断してカウンターの応援に入る…というような状況を判断する能力が必要になってきます。2人とも、このあたりのセンスが非常に優れていて、それはおそらく1日目の、一度の説明でさっと仕事を理解する頭の良さ(効率の良さ)が、2日目の動きの良さに反映しているのではないかと感じました。

特に今年度は男手が2人も入ったということで、普段はなかなかかどらない力仕事めきめきと片付き、こちらでも本当にありがたい職業体験ではありました。櫻井くん、多田くん、お疲れ様でした。 <湧学館・新谷保人>



京極読書新聞は  
毎月1日発行です。

2ページ目へ続きます



## 湧学館の職業体験を無事終えて… ～京中生にインタビュー2014 特別編～

新谷 お疲れ様です。いやー、いっぱいいろいろな仕事をしましたね。

多田 カウンターで本の貸し出しをしているような姿をイメージしていたのですが、書架への本の返却とか、本の修理とか、立ち仕事が意外と多かったのにはびっくりしました。

櫻井 僕は、ケガ（右鎖骨骨折）をしていたため、あまりできませんでした。それでも、書架の本の移動など、肉体的な仕事が多かったのには驚きました。いつもは、何気なく利用している湧学館ですが、この職業体験をさせていただいてからは、こういういろいろな仕事を裏で行っているから、みんなが気持ちよく利用することができるんだなと気づきました。

新谷 うーん。毎年の京中職業体験は（女子が多かったこともあって）ここまで力仕事をやらせてもらうということはなかったと思います。ただ、今年の2人は頭が良いというか、一度の仕事の説明でどんどんそれをマスターしてしまうし、しかも、他の仕事と関連づけて、ひとつの大きな「図書館の仕事」としてマスターして行くので、ものすごく教え甲斐があったというか。2日目は、ほとんど、あれもやってみよう！これもやってみよう！という感じでした。



資料展示準備②

多田 湧学館の人たちが、たとえば、書架に本を戻しに行くと、途中で、乱れた書架を見つけたら、即座に本をきれいに並べ直しはじめる姿が印象的でした。

新谷 ああ、「割れ窓理論」ってやつですね。ビルディングの割られた窓一枚を放っておくと、隣の窓、まわりの窓と、どんどん窓が割られて行く…という。

図書館の書架も同じで、乱雑になった書架を放っておくと、利用者の人たちも「ああ（この図書館は）これでいいんだ」ということになって、ぐしゃぐしゃな書架が広がって行く。だらしない図書館になるんです。そうならないためには、最初の「一枚目の窓」のところで、即座に的確に対応しなければならないんです。でも、よくそういうところを見ていましたね。何の仕事をおぼえた…とか、何ができるようになった…ということなんかより、本当は、そういうところに気づくのが「職業体験」の本当の意味だと思いますよ。

櫻井 1日目の「敬老の日 おすすめ図書」の展示をつくったのがおもしろかったです。僕の大好きな久保俊治さんの「熊撃ち」が、その中に入っていたのがうれしかったです。



資料展示準備①



新谷 ヘえ、すいぶんシブい本が好きなんだね。でも、私も、この本はイチオシです。今年の「おすすめ図書」はなかなかセンスがよくて、峯崎ひさみさんの「穴はずれ」が入っていたりするんです。（たぶん今年初めて…）それで、櫻井くんが来たら聞いてみたいと思ってたことがあるんです。峯崎さんの旧姓は「桜井」さんなんですね。なにか、親戚関係があるんでしょうか。

櫻井 そうです。うちのお爺さんの姉にあたる方です。今は千葉県に住んでいますが、京極に来た時はうちに泊まります。3年前、湧学館の読書会に参加しに来た時もうちに泊まりました。

新谷 ああ、やっぱりそうだったんですか。私も峯崎さんを訪ねて千葉の市川（いちかわ）市に行ったりしたんですが… 「穴はずれ」はいいですね。昭和30年代の京極の町がいきいきと描かれていて、この本と出会ったおかげで、この地に暮らしているのが楽しくなって、もう8年目に入ってしまった。

櫻井 僕も、お爺さんに案内されて錦に行ったことがあります。



本の修理

多田 錦？

新谷 京極町の南東部に「錦」という町があって、峯崎さんはその出身なんです。昔は人がいっぱい暮らしていました。「穴はずれ」には、あの時代の開拓農家の生活とか、錦小中学校の少女時代の光景が見事に描かれています。

多田 そうですか。京極中学校だけじゃなかったんですね。

新谷 錦中学校の他にも脇方中学校というのもありました。小学校に至っては、町の最盛期には、京極・脇方・南京極・錦・北岡・東花・更進と7つもあったんだよ。そう思うと、やはり時間がたったんだなあ…ということを感じますね。今回の職業体験、みんなも疲れただろうけれど、じつは私もね、けっこう疲れたんですよ。若い人たちと同じペースで動きまわると、2日目あたりでかなりダメージが来ます。年はとりたくないなあと思いました。これから、まだまだ伸びる身体や、無限の可能性をもっている人たちがうらやましいです。



カウンター作業

#### 【中学校へ送った2人の評価】

骨折のため利き腕が使えない櫻井くんのことを常に考えて、片腕でもできる仕事をまわしたり、両腕が必要な仕事は二人で取り組んだり、こういう心づかいがさりげなくできる多田くんの感性が印象的でした。櫻井くんも片腕を言い訳にしないで、できる仕事とできない仕事を見極め、今できる仕事に一生懸命取り組む姿勢がよかったです。結果的に、歴代の職場体験の中では断トツに多くの仕事量をこなしたチームとなりました。去年の村上さんもそうですが、教えたことを一度で正確にマスターする能力は、これからの人生でも大きな武器になってゆくとおもいます。

<湧学館開館10周年記念企画>



# ファイターズと本を読もう!

北海道日本ハムファイターズが実施している、読書推進全道キャンペーン「グラブを本に持ちかえて」。湧学館では、このキャンペーンと連携した読書応援企画展を開催します。監督・選手の推薦図書とその推薦文が掲載されたリーフレットを配布（※無くなり次第終了）するほか、掲載されている本やファイターズ・野球に関する本を展示します。選手の素顔が見られる“読書男子”写真も必見です!



展示期間：10月1日（水）～11月9日（日）予定



## 2014年 京極町応援大使 紹介コーナー

北海道日本ハムファイターズの選手たちが、地域の皆さんと交流を図り、まちおこしを応援する「北海道179市町村応援大使」プロジェクト。今年は京極町など全18市町村が選ばれ、36選手の応援大使が全道で活躍しています。

京極町の2014年応援大使は「#21 武田久投手」と「#59 河野秀数投手」。町中でポスターを目にすることも多いのではないのでしょうか？

応援大使紹介コーナーでは、2選手の等身大パネルや写真のほか、選手の直筆によるプロフィールの展示を予定しています。

今年の成人式で上映されたお祝いコメントや、球場で流れた京極町紹介ムービーも視聴することができますので、『ファイターズと本を読もう!』コーナーと合わせてどうぞ。

武田久投手

河野秀数投手



### 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京極町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

